

き ら り

12

2020 DECEMBER

「あぐりスペシャル」
旬のおいしさを、食べて応援！
この時期に
おすすめの
「香川県産冬野菜」
「らいふスペシャル」
地域の農業と生活を支える
「ふれあいセンター」へようこそ！

「6次産業化に挑戦します。」
**農業の可能性は、
無限大∞!**

JA香川県は
自己改革に
取り組んでいます！



農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化

JA香川県では
「新型コロナウイルス
感染症対策本部」を
設置し、感染防止に
取り組んでいます。



この時期に
おススメの

「香川県産冬野菜」

旬のおいしさを、食べて応援！

温暖な気候に恵まれた香川県には、冬野菜の特産品がたくさんあります。関東・関西をはじめとする全国の大都市圏に出荷しているほか、県内のスーパーなどでも販売しています。新鮮な県産野菜を毎日食べて、冬を健やかに乗り切りましょう。今月号では、県産の主要冬野菜を紹介します。



ロメインレタス

レタス類

出回り時期／10月上旬～5月下旬

結球レタスのほか、近年はロメインレタスの生産も増えています。サニーレタス、グリーンリーフなどもあります。冬は鍋物や炒め物にもおススメです。

栽培面積／664.6㍒

出荷総数量／14,230.4㍏

生産者数／815人

主な産地／東かがわ市、坂出市、善通寺市、三豊市、観音寺市

全国順位
8位

ブロッコリー

出回り時期／10月上旬～6月中旬

現在、県内で最も多く栽培されている野菜。どんな料理にもよく合い、栄養価の高さでも人気です。香川県産は茎までおいしいですよ。

栽培面積／1,355㍒

出荷総数量／14,084㍏

生産者数／1,712人

主な産地／県下全域

全国順位
2位



金時ニンジン

出回り時期／10月下旬～3月下旬

西洋ニンジンに比べて、肉質が柔らかく甘味が強いことや鮮やかな赤色が特徴です。お節料理やお雑煮など、お正月には欠かせない食材ですね。

栽培面積／71.6㍒

出荷総数量／2,191.6㍏

生産者数／81人

主な産地／坂出市、観音寺市

全国順位
1位



イチゴ

出回り時期／10月下旬～6月下旬

イチゴは分類上は「野菜」。県内ではオリジナル品種の「さぬきひめ」のほか、「女峰」などが代表品種。12月には本格的な出荷を迎えます。

栽培面積／55.37㌥
出荷総数量／2,205.9㍑
生産者数／297人
主な産地／県下全域



ナバナ

出回り時期／11月上旬～4月中旬

春の訪れを感じさせるほのかな苦みにファンの多い野菜。辛子和え、ちらし寿司など“和”のイメージがありますが、パスタにもよく合います。

栽培面積／92.49㌥
出荷総数量／567㍑
生産者数／803人
主な産地／県下全域



青ネギ

出回り時期／周年

県内では一年中栽培され、「さぬきの青ねぎ」のブランド名でさぬきうどんには欠かせない野菜としてPR。みそ汁やうどんの薬味など、毎日使っている野菜の一つです。

栽培面積／161㌥
出荷総数量／2,394.6㍑
生産者数／405人
主な産地／県下全域



ミニトマト

出回り時期／周年

夏野菜のイメージがあるトマトですが、県産ミニトマトは周年出回ります。糖度の高さが特徴で、加熱調理するとより甘さが増します。

栽培面積／15.59㌥
出荷総数量／1315.3㍑
生産者数／129人
主な産地／東かがわ市、さぬき市、多度津町、善通寺市



パセリ

出回り時期／10月中旬～7月中旬

当JA大川地区管内(東かがわ市大内地区)は、50年以上続くパセリの産地。「大内パセリ」は、色が濃く形もきれいで日持ちすると評判。さまざまな料理に使いたい野菜です。

栽培面積／6.6㌥
出荷総数量／162.4㍑
生産者数／39人
主な産地／東かがわ市



セルリー(セロリ)

出回り時期／12月上旬～3月下旬

当JA三豊地区管内(観音寺市八幡町)には、県内唯一の「観音寺セルリー部会」があり、収穫期は冬。ミネストローネやクリームスープに入れてもおいしいですよ。

栽培面積／8.7㌥
出荷総数量／733㍑
生産者数／22人
主な産地／観音寺市



ダイコン

出回り時期／12月上旬～6月下旬

冬ダイコンはこれからが旬。おでんはもちろん、肉や魚との炊き合わせ、漬物、おろしなど、さまざまな料理に使えます。

栽培面積／25㌥
出荷総数量／5,402.9㍑
生産者数／23人
主な産地／坂出市

今だからこそ、県産冬野菜！ 地産地消の魅力、食育の大切さを アピールしていきます。



仲卸、買参人、青果バイヤーに県産野菜をPRする同室の関義紀課長補佐(左)と多田憲史委員長(左から2人目)



出荷された県産レタスを
確認する多田委員長

JA香川県営農部販売促進課

岡原 貴久 課長
に聞きました。



今

年4月、生産者からの要望もあり、当JA営農部販売促進課の中に青果物の販

います。

また、現在力を入れているのは、県内の学校給食への食材提供。国の事業も活用して、できるだけ多くの児童に提供しようという計画です。最近の学校給食は、限られた予算の中でできるだけ国産を使おうという動きがあります。そこで、需要が減少した県産野菜を地産地消、食育の意味も込めて地元の子どもたちに味わってもらえればと取り組んでいます。

ま

今のところ天候不順などの影響もなく、順調な出荷を見込んでいます。消費者にも品質のよい野菜が潤沢に供給できるのではと考えています。市場や消費者への販売促進活動も、上期(4～9月)はほとんどできませんでしたが、感染対策に配慮しつつ少しずつ再開。県内量販店の協力で県産野菜のPR活動として、特設コーナーでのフェアを実施しています。

このコロナ禍で最盛期を迎える園芸品目においても、社会や消費者のライフスタイル(消費行動)の変化が、需給バランスや流通構造を大きく、そしてめまぐるしく変えています。その変化にいち早く対応し、できる限り有利な販売を実現して生産者の所得向上につなげたいと、情報収集や販路開拓に努めています。

今は春先から続く新型コロナウイルスの影響で、香川県の農作物にも販売流通面で少なからず影響が出ました。当JAでも、特に大きく需要が減少した品目(牛乳、牛肉、花、タマネギなど)を職員も購入するなど、さまざまな対策を講じてきました。

今

強化に特化したグループを作りましたが、新型コロナウイルスの影響で、遠隔地や大都市圏で当初計画していた活動ができませんでした。そこで10月1日、高松市中央卸売市場内に、当JAの「販売力強化推進室」を開設しました。地元での販売のメインとなる同市場内に場所を借りて職員2名が中心となり、情報収集や仲卸、県内量販店との商談、品目提案などを行うことで販売力を強化しようという試みです。

この取り組みのもう一つの目的は、販売に精通した人間を育成すること。同市場は地元の市場ですが全国から青果物が集まって来ます。そこで、競合産地の品を実際に見て実践的な研修ができるというわけです。地元スーパーや仲卸などとの商談も、参加型の研修です。こうした機会を通して、生産者のために販売力の強化を図っていきます。



県内スーパーでの特設県産野菜売場

香川県産野菜イメージアップのため 新しい認定制度がスタート!

「さぬき讃ベジタブル」とは?



香川県産野菜
イメージキャラクター
ベジィさん



お披露目された香川県産野菜
イメージキャラクター「ベジィさん」



香川県農政水産部
生産流通課
ホームページ



かがわ農産物流通
消費推進協議会
Instagram

上、消費拡大に向けて自らの創意工夫に基づき、イメージアップの取り組みを進めようとする計画を同協議会が認定するものです。詳細は、香川県ホームページで公開されるほか、本誌「きりり」などでもお知らせします。

去る11月14日には、高松市の丸亀町グリーンで「かがわ『旬のイチオシ!』農産物大収穫祭」を開催し、香川県産野菜「さぬき讃ベジタブル」のイメージキャラクター「ベジィさん」が発表されました。

今後は、認定生産者の栽培する品目について「ベジィさん」などを活用しながら、県産野菜の認知度向上に取り組めます。



香 川県と「かがわ農産物流通消費推進協議会」は、

生産者が旬や品質などにこだわって作った野菜の愛称を「さぬき讃ベジタブル」として一体的なPRに取り組むため、「香川県産野菜イメージアップ計画認定制度」を策定しました。同認定制度は、生産者が県産野菜のイメージアップと認知度向上

※「かがわ農産物流通消費推進協議会」は、JA香川県など23機関・団体などで構成しています。



待ちに待った
認定制度もスタート。
**今年もおいしい
冬野菜を
お届けします!**

香川県野菜花き生産者研究会 会長

久保 哲也さん

さ

ぬき讃ベジタブル」の取り組みは、生産者として大いにありがたいことです。果物と違って野菜は差別化しにくいので、これを一つのきっかけにして、JAさんにも香川県産のよさをどんどんアピールしていただきたいですね。

たとえば、私が作っているレタスも初年度モデル的な取り組みとして認定を目指しています。レタスは香川県で生産が始まって60年にもなり、これまで培ってきた技術を結集した品質のよさが自慢です。若い生産者も増えてきてがんばっています。量を作って生産地を支えようとしている人もいます。しかし、農産物は生産部会単位の「共販」ですから、一人だけよい物を作っても多く作っても、みんなの力がなければ産地として成り立ちません。そこで、JAの営農指導の力も借りて、みんなで力を合わせてよい野菜を作り、香川県の農業を支えていければと思っています。

生

産者は冬の寒さに負けず、おいしい野菜を栽培しています。今年には新型コロナウイルスの影響もあって、地元での販売を増やす取り組みも行っています。上質な冬野菜が例年にも増して地元に出回りますので、ぜひ香川県産の野菜をしっかりと食べて、冬を元気に過ごしていただきたいです。

地域の農業と生活を支える

らいい special

「ふれあいセンター」へようこそ!

JA香川県の「ふれあいセンター」は、現在県下に35店舗。多くは地区営農センターや支店など同一敷地内に設置され、さらに農産物直売所を併設した店舗もあります。組合員の営農や生活を支える拠点の一つとして、また情報発信やコミュニケーションの場としても活用されています。



ふれあいセンター
多度津店



JA香川県経済部
林 進次長に
聞きました

農家に応える店舗として

「ふれあいセンター」が取り扱う生産資材は、肥料、農薬、種子、ビニール、マルチ、ダンボールなどがあります。代表的な取扱品目を例にとると、県下で肥料は約1000種類、農薬も約1300種類に及びます。生活資材としては、当JAオリジナル商品、Aコープマーク品をはじめ、手袋やマスクなどの日用品も販売しています。商品により予約購買(注文販売)と当用購買(店頭販売)があります。

※商品は地域の農業の特性に合わせ、店舗ごとの扱いが変わります。また季節によっても変わります。

情報発信の拠点として

農家は通常、当JAの営農指導員や香川県農業改良普及センターなどからさまざまな情報を得て営農に取り組んでいます。中でも生産資材に関しては、商品ごとの細かい情報を持っているのが「ふれあいセンター」です。商品を選ぶ際には参考になる情報を提供しています。営農

ふれあいセンターの取り組み

農家に対しては、来店を待つだけでなく、積極的に訪問もして情報発信し、コミュニケーションを図っています。大口利用農家への「肥料満車直行便」や、農業の大型規格品(JAオリジナル)を増やすなど、コスト低減の努力も続けています。

今後も、顧客満足度を上げ、開かれた魅力ある店舗を目指す取り組みを行っていきます。気軽に利用して、何でもご相談ください!

「ふれあいセンター」についてのお問い合わせは、JA香川県経済部店舗総合課(TEL087-818-4163)または、最寄りの店舗までお気軽にどうぞ。各店舗の情報は当JAホームページをご覧ください。

JA香川県 ふれあいセンター

検索

地域の交流拠点として

指導員や普及センターとも緊密に連携しているため、相談事にも、迅速に対応することが出来ます。

「ふれあいセンター」は、農家とJA職員、また生産者同士の交流の場でもあり、情報交換の場ともなっています。

もちろん、農家以外の方も大歓迎です。一般の方が農業に親しみを持っていただけのような、地域に開かれたコミュニケーションの拠点を目指しています。家庭菜園で野菜や花作りをしたい方、農産物直売所の出荷会員を目指す方も、プロが丁寧に相談に乗ります。気軽にお立ち寄りください。



店舗訪問

ふれあいセンター多度津店
スタッフのみなさん

ふれあいセンター多度津店

「ふれあいセンター多度津店」は、多度津支店の敷地内にあり、農産物直売所併設型の店舗です。そのため、直売所に出荷するための資材を多く扱っています。また、周辺はブドウの産地なのでブドウの肥料や農薬、出荷資材などがあります。ほかにも麦、ブロッコリーの栽培農家も多いため関連商品もあります。

職員は、産地直売所多度津店と兼務で総勢10名。親しみやすい接客、わかりやすい丁寧な説明を心がけています。

野菜の苗、家庭菜園用の肥料や農薬なども取り扱っていて、農家や直売所の利用者、家庭菜園を楽しむ方もよく来店されます。職員が希望を聞いて適切なものをおすすめしています。

また、当JAオリジナル商品の「ほんまもん麦茶」のパック、Aコープ商品の「漬物の素」なども人気商品です。

当店は、地域の農業を支える根幹であるのももちろん、地域の人たちに「農産物をつくる楽しさ」を広めていく施設として、直売所の出荷会員を増やし、地域を盛り上げていきたいと考えています。

利用者の声

よしふみ 森香文さん【多度津町四箇地区】

ふれあいセンターでは農薬と肥料を買うことが多く、大量に使うものは各部会を通して予約注文しますが、ちょっと使いたい、違うものを試してみたい、という場合には店舗で相談して買っています。店頭にはないものも取り寄せてもらえ、翌日くらいには手に入ることが多いので助かっています。

現状のほ場の悩みを相談して、役立ちそうな肥料や農薬をふれあいセンターに買いに来ることもあります。親身になってくれ、的確で誠実なアドバイスをもらえるので信頼しています。私にとっては何でも気軽に相談できる、親しみやすくして頼りになる場所です。



優秀賞を受賞したラウンドアップの商品陳列棚の前で、顧客の森さん(写真左)に商品説明をする丸岡所長

「JA-POP甲子園」に挑戦し、店舗に活気を!

当JAのふれあいセンター各店は、魅力ある店舗づくりの一環として、JA全農が主催する「JA-POP甲子園」に積極的に参加し、毎年多くの店舗が受賞しています。店舗内の商品説明や飾りつけ(ポップ)を競うもので、応募条件は、すべて職員の手作りであること。

多度津店は、「ラウンドアップ部門」で2019年に最優秀賞、2020年も優秀賞を受賞しました。制作リーダーの石谷真二職員は、「お客さまからの評判も上々で、『きらり』(11月号)を見て受賞を知った組合員さんから『おめでとう』と言ってもらえることもあり、職員一同取り組んでよかった!という思いです。ぜひ、力作を見にお立ち寄りください!」と話していました。